

画像処理・画像処理工学 レポート課題 2

画像処理工学科 学籍番号: 21239 組番号: 234 5E 氏名: 柳原 魁人

2026 年 1 月 23 日

1 課題 1

1.1 問題 1-1: メディアンカット量子化法

1.1.1 理論

ピクセル値をソートして目標色数のグループに均等分割し、各グループの中央値を代表色として設定する手法です。

1.1.2 計算・導出過程

図 A-1 に示す 4×5 画素の画像に対してメディアンカット量子化法を適用し、4 色に量子化します。

102	179	92	14	106
74	202	87	116	99
151	130	149	52	1
235	157	37	129	191

図 1 量子化前の 4×5 ピクセル画像 (数値表示)

全ピクセル値は以下の通りです。

102, 179, 92, 14, 106, 74, 202, 87, 116, 99, 151, 130, 149, 52, 1, 235, 157, 37, 129, 191

これをソートすると以下のようになります。

1, 14, 37, 52, 74, 87, 92, 99, 102, 106, 116, 129, 130, 149, 151, 157, 179, 191, 202, 235

これを 4 つのグループに均等分割（各 5 ピクセル）すると、以下の表のようになります。

グループ	ピクセル値	代表色 (中央値)
1	1, 14, 37 , 52, 74	37
2	87, 92, 99 , 102, 106	99
3	116, 129, 130 , 149, 151	130
4	157, 179, 191 , 202, 235	191

上記に基づく量子化前後の比較を図で示します。

102	179	92	14	106	(a) 量子化前	99	191	99	37	99
74	202	87	116	99		37	191	99	130	99
151	130	149	52	1		130	130	130	37	37
235	157	37	129	191		191	191	37	130	191
(グループ別色分け)					(代表色)					

図 2 量子化前 (左) と量子化後 (右) の比較

1.1.3 結果

問題1-1 限定色表示

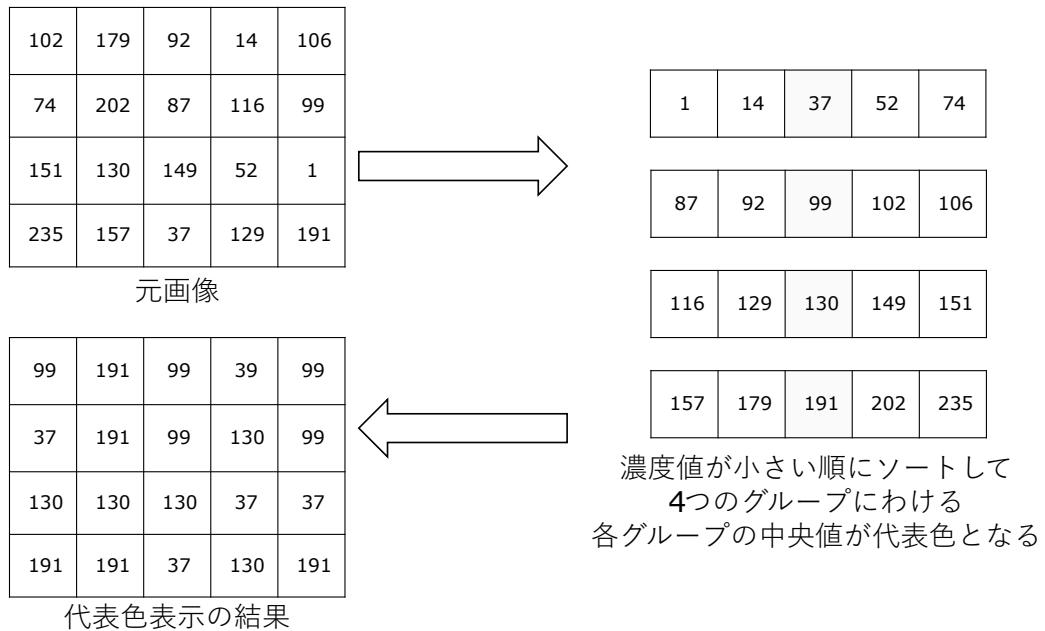


図3 メディアンカット量子化の結果

1.2 問題 1-2: ラベリング処理

1.2.1 理論

2 値画像で連結成分に同一ラベルを割り当てます。2 回走査法では、第 1 回で仮ラベル割当と等価関係記録を行い、第 2 回で統合します。

1.2.2 計算・導出過程

図 A-2 の 10×10 画素画像に対してラベリングを実行。

第 1 回走査では、左上から右下へ走査し、各白ピクセルについて左上・上・右上・左のピクセルを確認します。

- 全て黒 → 新規ラベル割当
- いずれかが白 → そのラベル継承
- 複数が異なるラベル → 最小値割当、等価関係記録

等価ラベル関係： $A - B - C, E - F, D$

第 2 回走査：等価関係に基づいて代表ラベルに統一。

仮ラベル	等価関係	代表ラベル
A, B, C	$A - B - C$	A
D	単独	D
E, F	$E - F$	E

1.2.3 結果

問題1-2 ラベリング

1回目用										2回目用									
				A	A														
			A	A	A	A	A		B										
		A	A	A	A	A	A	A											
			A	A	A	A	A	A	A										
C	A	A	A	A	A					D									
		E		F		D	D	D											
		E	E	E			D												

同じ連結成分であると記録された組：
A-B-C, E-F, D

図4 ラベリング処理の結果

1.3 問題 1-3: ハフマン符号化

1.3.1 理論

高確率シンボルに短い符号を割り当てる可変長符号化を行います。ハフマン木を構築することで符号を生成します。

1.3.2 計算・導出過程

8 個のシンボルの出現確率を以下に示します。

シンボル	確率	符号
0	0.30	10
1	0.02	00001
2	0.06	0011
3	0.04	0001
4	0.01	00000
5	0.05	0010
6	0.20	01
7	0.32	11

結合ステップを低い確率から順に実行すると以下の通りです。

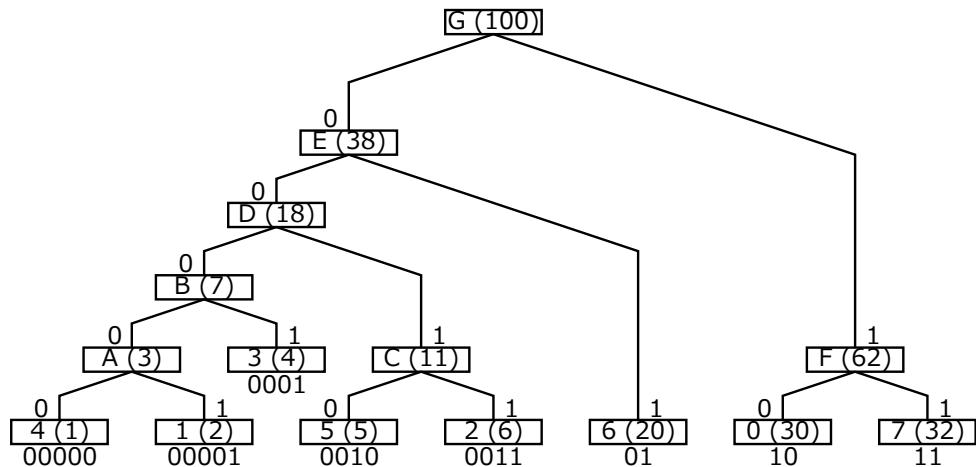
1. $4(0.01)+1(0.02)=0.03 \rightarrow A$
2. $A(0.03)+3(0.04)=0.07 \rightarrow B$
3. $5(0.05)+2(0.06)=0.11 \rightarrow C$
4. $B(0.07)+C(0.11)=0.18 \rightarrow D$
5. $D(0.18)+6(0.20)=0.38 \rightarrow E$
6. $0(0.30)+7(0.32)=0.62 \rightarrow F$
7. $E(0.38)+F(0.62)=1.00 \rightarrow G$

平均符号長計算：

$$\begin{aligned}L &= 0.30 \times 2 + 0.02 \times 5 + 0.06 \times 4 + 0.04 \times 4 \\&\quad + 0.01 \times 5 + 0.05 \times 4 + 0.20 \times 2 + 0.32 \times 2 \\&= 2.39 \text{ ビット}\end{aligned}$$

等長符号（3 ビット）との比較：削減量 = $3 - 2.39 = 0.61$ ビット（約 20% 削減）

1.3.3 結果



2 課題 2

3 問題 1: モルフォロジー処理によるノイズ除去

3.1 概要

開処理と閉処理を用いてノイズを除去。

3.2 結果

開処理 (Opening = 収縮→膨張) により、白色の孤立ノイズを除去した。収縮処理で小領域が消失し、その後の膨張で主要な図形領域を復元する。本画像では白色ノイズが支配的であるため開処理を選択した。実験の結果、構造要素は十字型 (MORPH_CROSS) より矩形 (MORPH_RECT) を用いた方が孤立した小ノイズの除去に優れていることがわかった。実務的には矩形で開処理 (opening) を行った後、楕円形 (MORPH_ELLIPSE) のカーネルで追い処理を行うことで、矩形処理後に残存した微小なノイズをさらに効果的に除去できることを確認した。矩形→楕円の順で処理することで、形状保持と雑音除去のバランスが良好になった。閉処理 (Closing = 膨張→収縮) は黒いノイズの埋め込みに有効だが、本課題では不要と判断した。

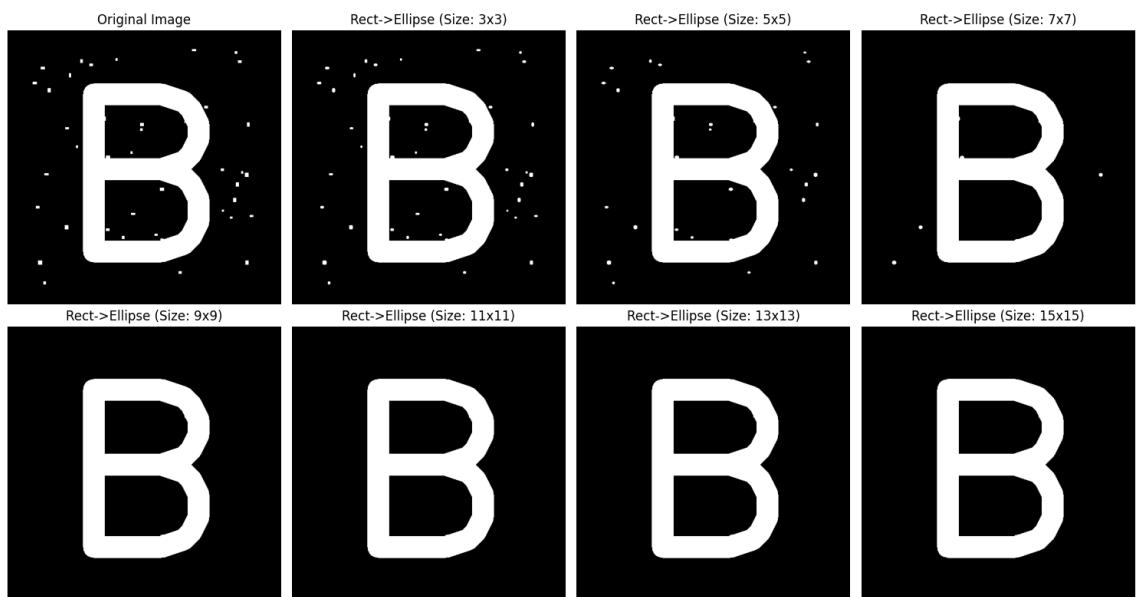


図 6 Kernel size 15 での開閉処理結果（ノイズ除去後の 2 値画像）

カーネルサイズ 9 以降は見た目の変化が小さく、9 で十分。15 にする必要はない。

4 問題 2: JPEG 品質と圧縮率の関係

4.1 概要

JPEG 品質と圧縮率、SSIM 値の関係を調査。

4.2 結果

下表は本レポートで得られた数値（品質 Q、サイズ比、SSIM）を整理したもの。

表 1 品質 Q によるサイズ比と SSIM

Q	サイズ比 (%)	SSIM
0	0.9	0.327
10	2.2	0.520
20	3.6	0.609
30	4.8	0.656
40	5.8	0.686
50	6.7	0.709
60	7.7	0.729
70	9.3	0.753
80	11.8	0.783
90	17.7	0.825
100	45.5	0.871

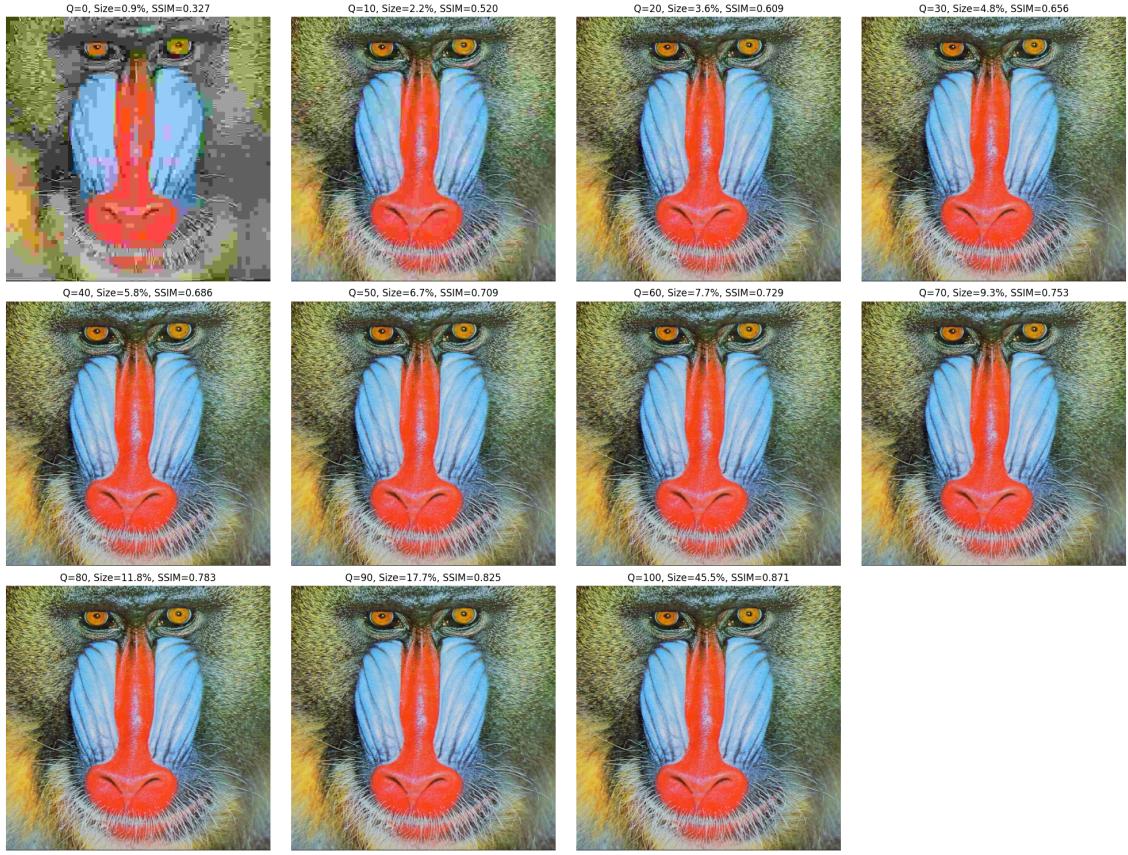


図 7 JPEG 品質 Q ごとの視覚比較とサイズ比・SSIM（提示画像）

Q=80 で SSIM=0.783、**Q=90** で SSIM=0.825 と向上するが、サイズ比は 11.8% → 17.7% へ増加。視覚・数値の両面から、実用的には **Q=80~90** が妥当。**Q=100** は SSIM 向上が小さい一方でサイズ比 45.5% と非効率。ただし、視覚的には **Q=10** の画像でも許容できると判断される場合がある（図 7 を参照）。SSIM は 0.520 と低めのため数値的には劣るが、用途によっては容量削減を優先して **Q=10** を採用することは妥当である。

5 問題 3: 2 次元 FFT と振幅スペクトル

5.1 概要

グレースケール画像を 2 次元 FFT で周波数領域に変換し、振幅スペクトルを分析。

5.2 結果

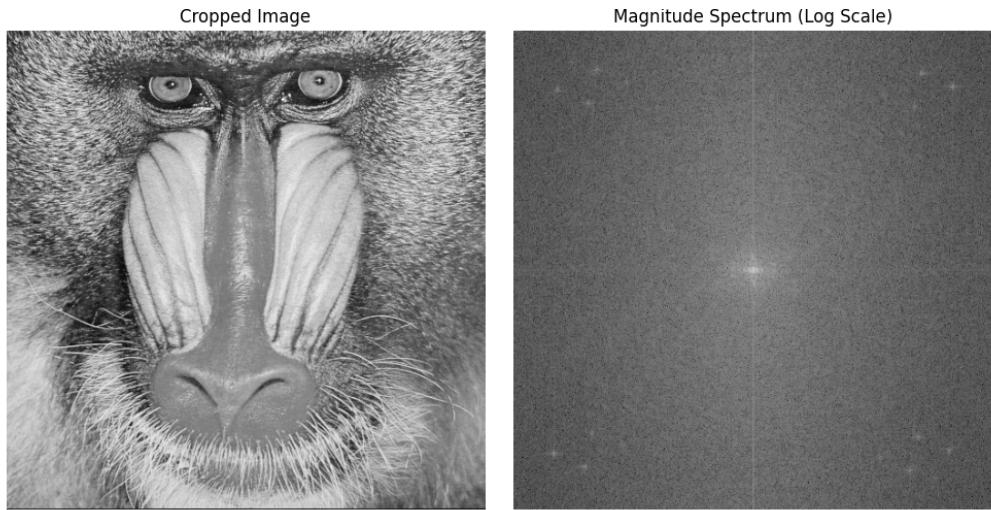


図 8 グレースケール画像の 2 次元振幅スペクトル（中央化）

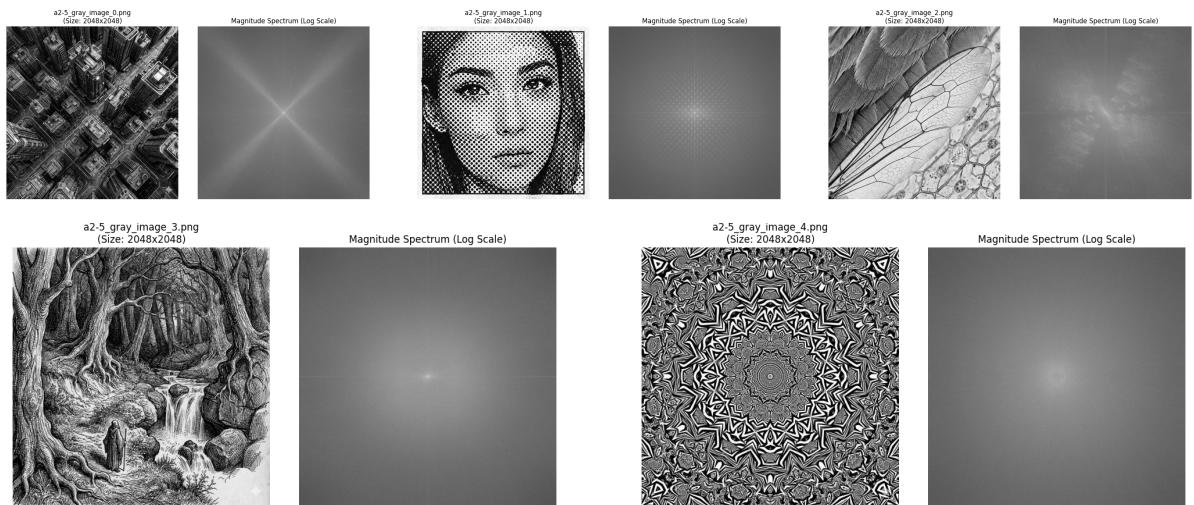


図 9 振幅スペクトル（複数表示）：低周波・対数スケール・中心化など（左上→右下: 0,1,2,3,4）

振幅スペクトルの中央が明るくなっていることは、DC 成分（0 周波数）や低周波成分が画像の主要な成分であることを示している。周辺が暗いことは高周波成分（細かいエッジやノイズ）が少ないことを意味する。また、スペクトル上に縦横方向の弱い線状パターンが見られる。これは画像内に規則的な境界や周期的な構造（繰り返しのエッジや勾配）が存在すると考えられる。

考察

FFT（高速フーリエ変換）による周波数解析では、**規則的なパターン、細かいテクスチャ、鋭いエッジ（高周波成分）**を多く含む画像ほど、振幅スペクトルに興味深い特徴（星状の点、十字、広がりなど）が現れる。逆に、ぼんやりした画像や単調な画像では、中心の輝き以外に目立った特徴が現れない。

■画像タイプ別プロンプト例 以下は、FFT の結果が「映える」画像を生成するためのプロンプト例（Midjourney / DALL-E 3 / Stable Diffusion 等で使用可）である。

パターン 1：幾何学的・周期的な構造

Prompt:

```
Hyper-intricate kaleidoscope pattern, complex geometric fractal, high contrast black and white, mathematical symmetry, sharp edges, detailed mandala, optical illusion art, 8k resolution --ar 1:1
```

パターン 2：細かい線描・版画調

Prompt:

```
Detailed cross-hatching illustration in the style of Gustave Doré, antique etching of a dense forest, intricate ink lines, engraving style, high detail, sharp texture, masterpiece --ar 1:1
```

パターン 3：人工的なグリッド・都市・回路

Prompt:

```
Aerial top-down view of a futuristic cyber city, dense skyscrapers, intricate circuit board texture, metallic surfaces, high contrast, greeble details, sci-fi architecture, sharp focus --ar 1:1
```

パターン 4：自然界のランダムなテクスチャ

Prompt:

```
Macro photography of intricate bird feathers, extreme close-up of insect wing texture, biological cells patterns, fibrous texture, sharp details, high texture quality, monochrome photography --ar 1:1
```

パターン 5：ハーフトーン・モアレ（ドット）

Prompt:

```
Halftone dot pattern portrait, pop art style, comic book shading, distinct dots, moire pattern effect, glitch art, high contrast, monochrome --ar 1:1
```

■生成時のコツ

- ・ アスペクト比は本解析ではクロップしていないため、生成時は元画像と同じアスペクト比を用いるか、解析目的で正方形（例：512×512）にトリミングしてから使用することをおすすめします。

- ”Intricate”、”Detailed”、”Dense”、”High contrast” といった語を含めると、周波数的に特徴が出やすくなる。
- コントラストを高めるとエッジ成分が強調され、FFT 結果が見やすくなる。

6 問題 4: 周波数フィルタの応用

6.1 概要

理想的ローパスフィルタ (ILPF) とガウシアンハイパスフィルタ (GHPF) を Cutoff=30 で適用し、効果を比較。

6.2 結果

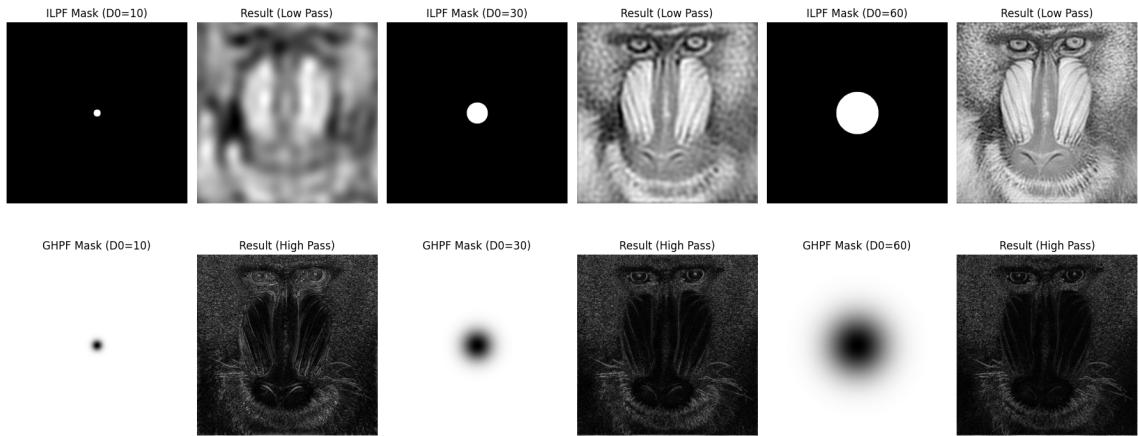


図 10 ローパスフィルタとハイパスフィルタの適用結果比較 (Cutoff=30)

ローパスフィルタ (ILPF)：低周波成分のみを通し、高周波（ノイズ・細部）を除去。結果は全体的にぼかされ、目や顔の大型構造は保持される一方、毛並みなどの細かいテクスチャは消失。ノイズ除去やスマージングに有効。

ハイパスフィルタ (GHPF)：DC 成分と低周波を除去し、高周波のみを通す。結果はエッジが明るく浮き出、目・口・毛並みなどの細部が強調される。大きな領域は暗くなり、画像全体はコントラストが低下。エッジ検出と細部抽出に有効。

カットオフ周波数 D0 の影響: D0 を 10/30/60 と変化させた結果、D0 が小さいほど通過する周波数帯域が狭まる。ローパスでは D0=10 で極端なぼかし効果、D0=60 で細部を一定程度保持する。ハイパスでは D0=10 でエッジ成分のみが抽出され、D0=60 では中間周波数も強調されより豊かなテクスチャが得られた。D0 の選択は目的（ノイズ除去 vs 細部保持）に応じて調整すべきである。

付録: プログラムリスト

問題1: モルフォロジー処理

```
1 # -*- coding: utf-8 -*-
2 """問題2_1.ipynb"""
3
4 # ドライブのマウントとファイル操作用モジュール
5 from google.colab import drive
6 from google.colab import files
7 drive.mount('/content/drive')
8
9 # モジュールのインポート
10 import cv2
11 import numpy as np
12 import matplotlib.pyplot as plt
13 import math
14
15 # 共通のディレクトリパス
16 common_path = '/content/drive/MyDrive/img2025/image/'
17 filename = 'a2-3_binary_image.png'
18
19 # 画像読み込み
20 img = cv2.imread(common_path + filename, cv2.IMREAD_GRAYSCALE)
21
22 # カーネルサイズのリスト
23 kernel_sizes = list(range(3, 17, 2))
24 total_images = 1 + len(kernel_sizes)
25
26 # レイアウト計算
27 cols = 4
28 rows = math.ceil(total_images / cols)
29
30 # 実行結果の表示設定
31 plt.figure(figsize=(15, 4 * rows))
32
33 # オリジナル画像
34 plt.subplot(rows, cols, 1)
35 plt.title('Original Image')
36 plt.imshow(img, cmap='gray')
37 plt.axis('off')
38
39 # カーネルサイズを変えて処理
40 for i, k in enumerate(kernel_sizes):
41     # カーネル作成
42     kernel = cv2.getStructuringElement(cv2.MORPH_RECT, (k, k))
43     # オープニング処理
```

```
44 result = cv2.morphologyEx(img, cv2.MORPH_OPEN, kernel)
45
46 # 表示
47 plt.subplot(rows, cols, i + 2)
48 plt.title(f'Opening (Kernel: {k}x{k})')
49 plt.imshow(result, cmap='gray')
50 plt.axis('off')
51
52 plt.tight_layout()
53
54 # 画像を保存してダウンロード
55 save_filename = 'problem2_1_result.png'
56 plt.savefig(save_filename)
57 plt.show()
58 files.download(save_filename)
```

Listing 1 問題 1 モルフォロジー処理によるノイズ除去

問題 2: JPEG 品質と圧縮率

```
1 # -*- coding: utf-8 -*-
2 """問題2_2.ipynb"""
3
4 # ドライブのマウントとファイル操作用モジュール
5 from google.colab import drive
6 from google.colab import files
7 drive.mount('/content/drive')
8
9 # モジュールのインポート
10 import cv2
11 import numpy as np
12 import matplotlib.pyplot as plt
13 import os
14 from skimage.metrics import structural_similarity as ssim
15
16 # 共通のディレクトリパス
17 common_path = '/content/drive/MyDrive/img2025/image/'
18 filename = 'a2-4_color_image.png'
19
20 # 画像を読み込む
21 original_img = cv2.imread(common_path + filename)
22 original_size = os.path.getsize(common_path + filename)
23 original_img_rgb = cv2.cvtColor(original_img, cv2.COLOR_BGR2RGB)
24
25 # 画像表示の準備
26 plt.figure(figsize=(20, 15))
27
28 # 品質0から100まで10刻みでループ
29 for i, quality in enumerate(range(0, 101, 10)):
30     # JPEG圧縮保存（一時ファイル）
31     output_path = common_path + f'compressed_{quality}.jpg'
32     cv2.imwrite(output_path, original_img, [int(cv2.IMWRITE_JPEG_QUALITY), quality])
33
34     # 圧縮後のファイルサイズ取得と圧縮率計算
35     comp_size = os.path.getsize(output_path)
36     comp_ratio = (comp_size / original_size) * 100
37
38     # 画像読み込み
39     compressed_img = cv2.imread(output_path)
40     compressed_img_rgb = cv2.cvtColor(compressed_img, cv2.COLOR_BGR2RGB)
41
42     # SSIM計算
43     score = ssim(original_img_rgb, compressed_img_rgb, win_size=3, channel_axis=2,
44                   data_range=255)
45
46     # 表示
```

```
46 plt.subplot(3, 4, i + 1)
47 plt.imshow(compressed_img_rgb)
48 plt.title(f"Q={quality}, Size={comp_ratio:.1f}%, SSIM={score:.3f}")
49 plt.axis('off')
50
51 plt.tight_layout()
52
53 # 画像を保存してダウンロード
54 save_filename = 'problem2_2_result.png'
55 plt.savefig(save_filename)
56 plt.show()
57 files.download(save_filename)
```

Listing 2 問題 2 JPEG 品質と圧縮率の関係調査

問題 3: 2 次元 FFT と振幅スペクトル

```
1 # -*- coding: utf-8 -*-
2 """問題2_3.ipynb"""
3
4 # ドライブのマウントとファイル操作用モジュール
5 from google.colab import drive
6 from google.colab import files
7 drive.mount('/content/drive')
8
9 # モジュールのインポート
10 import cv2
11 import numpy as np
12 import matplotlib.pyplot as plt
13
14 # 共通のディレクトリパス
15 common_path = '/content/drive/MyDrive/img2025/image/'
16
17 # 処理する画像ファイル名のリスト
18 filenames = [
19     'a2-5_gray_image_0.png',
20     'a2-5_gray_image_1.png',
21     'a2-5_gray_image_2.png',
22     'a2-5_gray_image_3.png',
23     'a2-5_gray_image_4.png'
24 ]
25
26 # ループで各画像を個別に処理・保存
27 for i, filename in enumerate(filenames):
28     # 画像を読み込む
29     gray_img = cv2.imread(common_path + filename, cv2.IMREAD_GRAYSCALE)
30
31     # 画像サイズから最大の正方形サイズを決定
32     h, w = gray_img.shape
33     crop_size = min(h, w)
34
35     # 中心から最大サイズでトリミング
36     start_y = h // 2 - crop_size // 2
37     start_x = w // 2 - crop_size // 2
38     cropped_img = gray_img[start_y:start_y+crop_size, start_x:start_x+crop_size]
39
40     # 2次元高速フーリエ変換（2D-FFT）
41     fourier = np.fft.fft2(cropped_img)
42     fshift = np.fft.fftshift(fourier)
43
44     # 振幅スペクトル（対数スケール）
45     amp_spectrum = 20 * np.log10(np.abs(fshift) + 1)
46
```

```
47 # --- 表示と保存（1枚ずつ個別のFigureを作成） ---
48 plt.figure(figsize=(10, 5))
49
50 # 左側：トリミング画像
51 plt.subplot(1, 2, 1)
52 plt.title(f'{filename}\n(Size: {crop_size}x{crop_size})')
53 plt.imshow(cropped_img, cmap='gray')
54 plt.axis('off')
55
56 # 右側：振幅スペクトル
57 plt.subplot(1, 2, 2)
58 plt.title('Magnitude Spectrum (Log Scale)')
59 plt.imshow(amp_spectrum, cmap='gray')
60 plt.axis('off')
61
62 plt.tight_layout()
63
64 # 個別に画像を保存してダウンロード
65 save_filename = f'problem2_3_result_{i}.png'
66 plt.savefig(save_filename)
67 plt.show()
68 files.download(save_filename)
```

Listing 3 問題 3 2 次元 FFT と振幅スペクトル

問題 4: 周波数フィルタの応用

```
1 # -*- coding: utf-8 -*-
2 """問題2_4.ipynb"""
3
4 # ドライブのマウントとファイル操作用モジュール
5 from google.colab import drive
6 from google.colab import files
7 drive.mount('/content/drive')
8
9 # モジュールのインポート
10 import cv2
11 import numpy as np
12 import matplotlib.pyplot as plt
13
14 # 共通のディレクトリパス
15 common_path = '/content/drive/MyDrive/img2025/image/'
16 filename = 'a2-5_gray_image.png'
17
18 # フィルタ生成関数
19 def create_ideal_lowpass(shape, cutoff):
20     rows, cols = shape
21     crow, ccol = rows // 2, cols // 2
22     y, x = np.ogrid[:rows, :cols]
23     dist_sq = (x - ccol)**2 + (y - crow)**2
24     mask = np.zeros(shape)
25     mask[dist_sq <= cutoff**2] = 1
26     return mask
27
28 def create_gaussian_highpass(shape, cutoff):
29     rows, cols = shape
30     crow, ccol = rows // 2, cols // 2
31     y, x = np.ogrid[:rows, :cols]
32     dist_sq = (x - ccol)**2 + (y - crow)**2
33     mask = 1 - np.exp(-dist_sq / (2 * (cutoff**2)))
34     return mask
35
36 # 画像読み込みとトリミング
37 gray_img = cv2.imread(common_path + filename, cv2.IMREAD_GRAYSCALE)
38 h, w = gray_img.shape
39 size = 512
40 img = gray_img[h//2-size//2 : h//2+size//2, w//2-size//2 : w//2+size//2]
41
42 # 2次元FFTとシフト
43 fshift = np.fft.fftshift(np.fft.fft2(img))
44
45 # 試行する遮断周波数リスト
46 cutoffs = [10, 30, 60]
```

```

47
48 # 表示設定
49 cols = len(cutoffs) * 2
50 plt.figure(figsize=(18, 8))
51
52 # --- 上段：理想ローパスフィルタ ---
53 for i, d0 in enumerate(cutoffs):
54     # マスク作成と適用
55     mask_lp = create_ideal_lowpass(img.shape, d0)
56     img_lp = np.fft.ifft2(np.fft.ifftshift(fshift * mask_lp)).real
57
58     # マスク表示
59     plt.subplot(2, cols, i * 2 + 1)
60     plt.title(f'ILPF Mask (D0={d0})')
61     plt.imshow(mask_lp, cmap='gray')
62     plt.axis('off')
63
64     # 結果表示
65     plt.subplot(2, cols, i * 2 + 2)
66     plt.title(f'Result (Low Pass)')
67     plt.imshow(img_lp, cmap='gray')
68     plt.axis('off')
69
70 # --- 下段：ガウシアンハイパスフィルタ ---
71 for i, d0 in enumerate(cutoffs):
72     # マスク作成と適用
73     mask_hp = create_gaussian_highpass(img.shape, d0)
74     img_hp = np.fft.ifft2(np.fft.ifftshift(fshift * mask_hp)).real
75
76     # マスク表示
77     plt.subplot(2, cols, cols + i * 2 + 1)
78     plt.title(f'GHPP Mask (D0={d0})')
79     plt.imshow(mask_hp, cmap='gray')
80     plt.axis('off')
81
82     # 結果表示
83     plt.subplot(2, cols, cols + i * 2 + 2)
84     plt.title(f'Result (High Pass)')
85     plt.imshow(np.abs(img_hp), cmap='gray')
86     plt.axis('off')
87
88 plt.tight_layout()
89
90 # 画像を保存してダウンロード
91 save_filename = 'problem2_4_result.png'
92 plt.savefig(save_filename)
93 plt.show()
94 files.download(save_filename)

```

Listing 4 問題 4 周波数フィルタの応用